

子どもの権利に関する条例市民モニター会議に参加して

平成 29 年度(2017)年度

(子どもモニター)

私は泉南中学校の校舎内に青少年センターを移動させることについてとても関心があります。そして、そのことについてみんなで話し合うことができたのは、とても光栄でした。たくさんの理想とそれを実現させるための問題点があることも知りました。学校という規則正しいルールの中に、厳しいきまりがない部屋を用意するというのは泉中の生徒に良くも悪くも大きな影響を与えることとなります。そこはきちんと泉中の全校生徒に意見を聞くべきだと思いました。そしてせっかく学校という内にあるのだから、特別教室を使えるようにしないと学校の内にいる意味があまり感じられません。最終的には4中学校すべてに施設が設置されることを強く望みます。

(子どもモニター)

今回参加して泉南市やおとながこんなにも子どもの住みやすい町について考えて取り組んでいるんだと知りました。そんな素敵な会議に参加できて良かったです。いろいろな人の意見をたくさん聞けたし、初めて知ったことも多くて勉強になりました。もっとこの頑張りを広げてほしいなと思います。次回の参加はできないですが、新しいメンバーで新しい意見を元に、よりよい泉南市になればいいなと思いました。

(子どもモニター)

たくさんの他の地区の方や学校の方からお話を聞いて良かったと思います。第1回、第2回で出た意見など実現できるものやなおせるところはできるだけ実際にして欲しいなと思います。2回だけでしたが自分が思っていることを話せました。ありがとうございました。

(おとなモニター)

モニターの一員として参加させていただきありがとうございました。私自身は力不足で十分に務めを果たせたかどうか疑問ですが。

午後の話し合いは自由の雰囲気の中でみなさんが発言され、とてもよい経験をさせていただきました。特に青少年センターと関わりのある方の発言は説得力がありました。また、中学生のモニターが新鮮な視点から意見を述べていたことが印象的でした。

モニターの方々のご意見を聞きながら、このような施設のさらなる充実につながることを期待しました。

運営面について「こうしたらどうだろうかと」失礼ながら…

●課題にもよりますが、今回の場合は青少年センターに関わりのある生徒をモニターとして要請することはできなかったのでしょうか。意見や感想を述べるのがモニターの務めですから、より正確な意見や感想を聞くことができたのではないのでしょうか。

●参加者の紹介は最初の段階で行うことはできないのでしょうか。お互いに話しやすくなるように思いました。

●生徒のモニターの人数を増やせないのでしょうか。

モニター会議の内容が、いろいろな場面で周知され生かされていくことを願っております。

企画から当日を迎え、さらに、結果のまとめで事務局の方々のご苦勞に敬意と感謝の気持ちを申し上げます。ありがとうございました。

(おとなモニター)

子どもの権利条例市民モニター会議を開催して下さいありがとうございました。

今回の会議で、泉南中学校建て替え時に、青少年センターと一緒にすることにとっても驚きました。

毎日のように青少年センターに通う鳴滝小の子どもたちをたくさん知っていて、その子どもたちが中学校に入ってまで遊びに行けるようには思えなかったので、新しい青少年センターの在り方について話し合ったり、他の中学校区の子供たちの意見も聞くことができてよかったです。

今回の会議でいっぱい出た意見を生かすことで、泉南中学生しか青少年センターを利用しようと思えない環境をいくらかでも変えていけると思うので、他の中学校区の子供たちから聞いた「他校生が来てる!!」というアウェイ感や小学生が中学校に行くのが怖くて遊びに行けないということを緩和していける信じています。行政側と子供たち、市民モニターでルールや方向性をさらに詰めていければ、より良く泉南市の子供たちがつながっていける場所になると思い、楽しみにしております。

(おとなモニター)

子どもの権利条例の周知は、年を経るごとに静かに確実に浸透しつつあると実感しました。市民の一人ひとりにまで及ぶように大切に育て、そして子どもとおとなが向き合って意見を表明する機会がさらに広がることを願っています。今回の会議に参加してくれた中学生は、生徒会役員がほとんどで、リーダー的な存在です。人数ではおとなに圧倒されながらも、前向きな新鮮な意見を語ってくれました。しかし、より多くの中高生からの本音を、より多くの時間聴きたいという願望はあります。泉南中学校新校舎建設に関して当の泉中生には詳細を何も知らされていないとは、この会議に相応しい問題提起だと思いました。今からでも遅くはない、泉中生が「自分に何ができる」を考える機会になるかもしれません。青少年センター機能一部移設にからめて「居場所」を語り合うグループワークは、夢と希望と構想が盛り上がり楽しいトークでしたが、児童館としての予定がないとの教育委員会の話で、盛り上がり半減したかのような空気が漂いました。ともあれ、新設校舎には、生徒が教科によって移動する教科センター方式が採用されることや、市民活用スペースができるなど、内外から注目を集めることになると思います。これが立派に利用され、良き前例となり「子どもにやさしいまち泉南」と市民が言えるようにならなければと思います。そのために「自分として何ができるか」を考えながら、見守っていきたいと思います。当日ががんばっておいしい昼食をつくってくれたキッズカフェのみなさんに大拍手。

(おとなモニター)

「白書」って何ですか？子ども市民モニターの子たちは、わからないことは素直にきくことができ、自分の思っていること感じたことを発表していました。

子どもの居場所である青少年センターについての話の中で、「運営委員会に子どもたちの参加と意見を取り入れる仕組みをつくってください」というのがあったけど、その通りだと思いました。自分たちの居場所づくりに自分たち子どもが参加できる意見を聞いてもらえると、子ども自身がわかることで「子どもの権利」について、子ども同士で話し合ったり、考える機会にもなるのではないかと思います。

子どもの権利条例を多くの人に知ってもらうには、何かをつくるときに、子どもの意見を聞く、参加する機会をつくることから始めるといいのではないだろうか？